

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

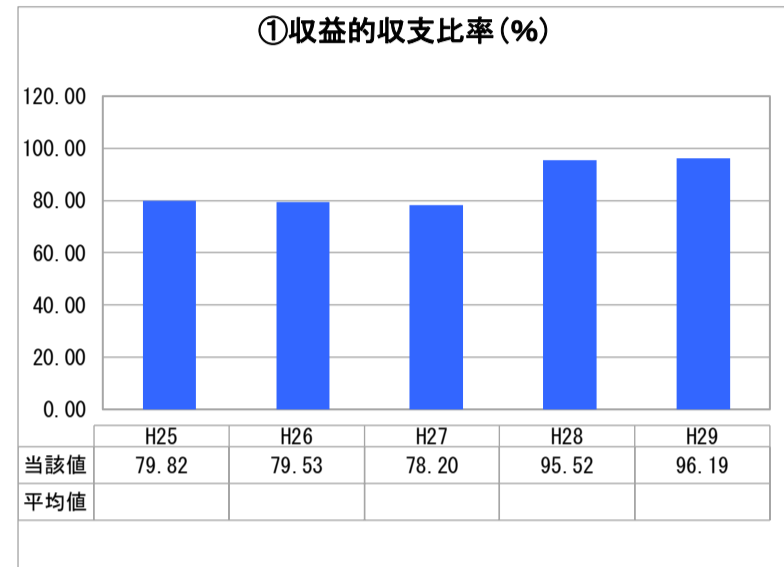
福井県 大野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	19.87	53.39	4,300

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
33,896	872.43	38.85
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,702	4.23	1,584.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



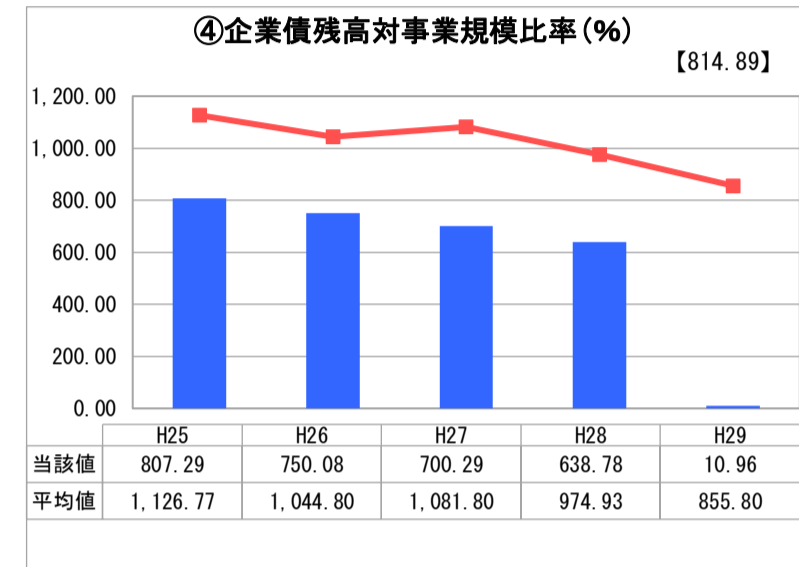
「単年度の収支」



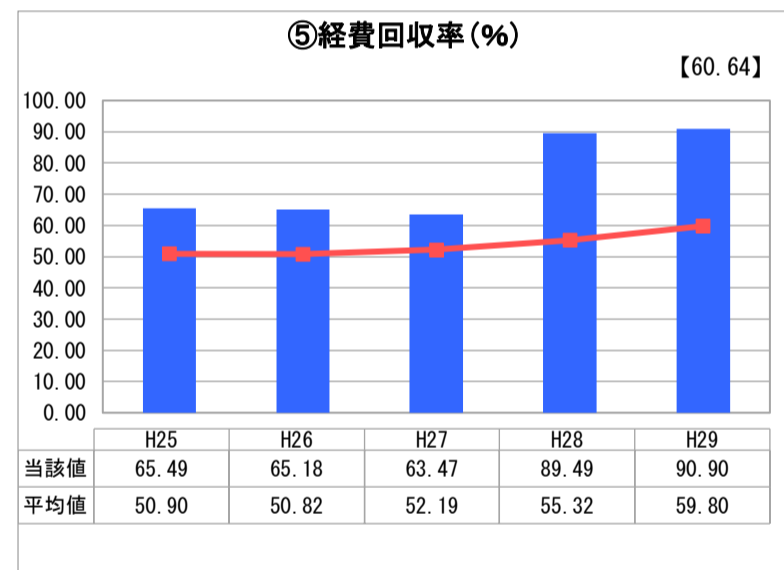
「累積欠損」



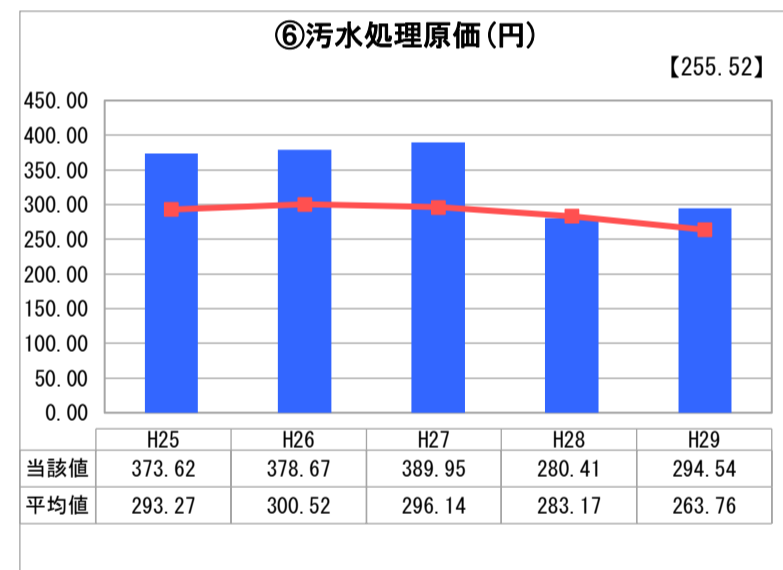
「支払能力」



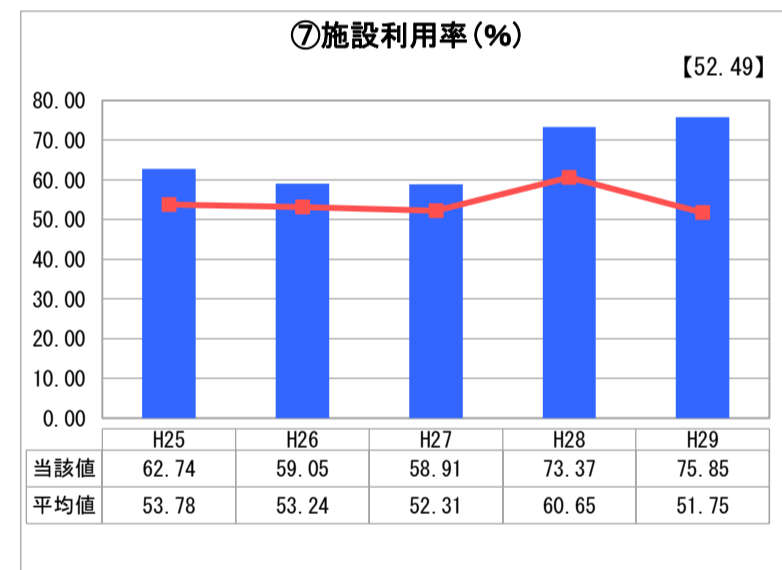
「債務残高」



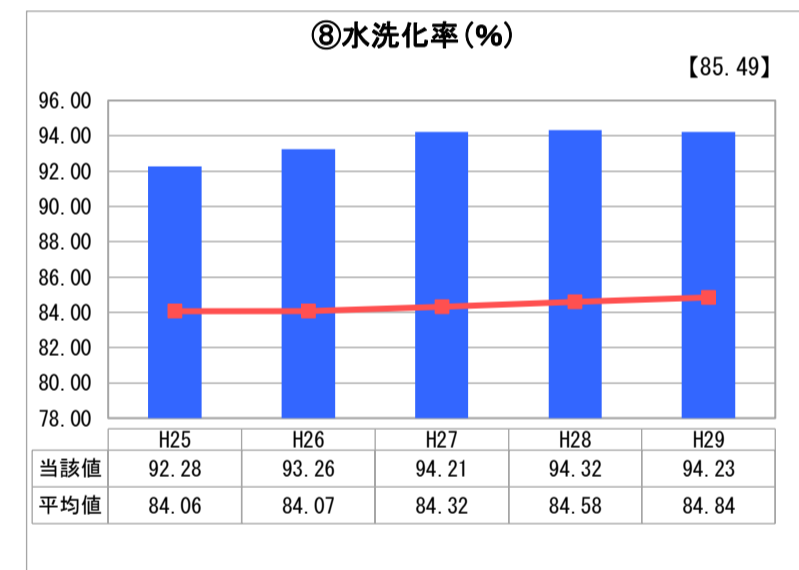
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

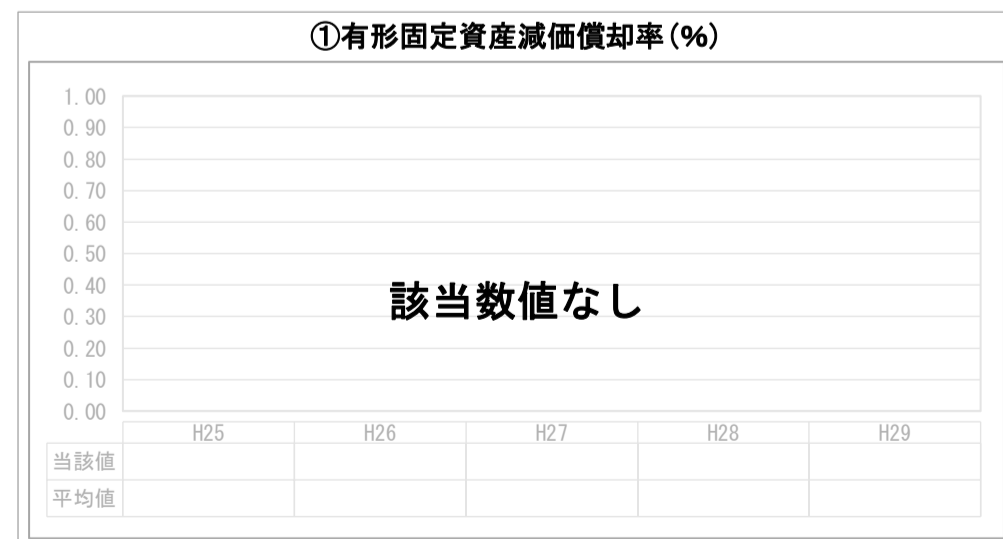


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

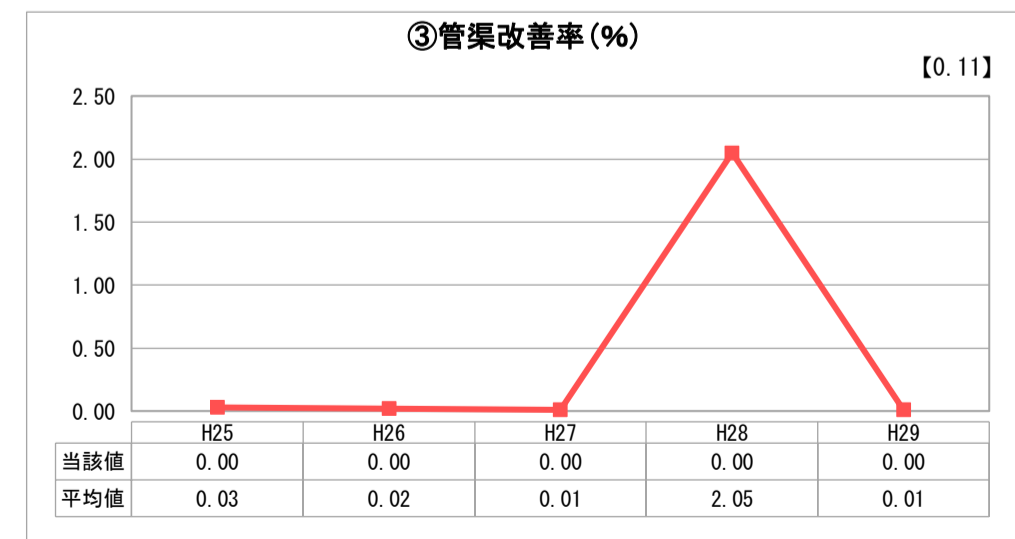
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率⑤経費回収率、は平成29年度に一部処理区で使用料金改定を行ったこともあり、改善傾向にある。しかし、両指標とも100%未満であることから、今後も使用料金の見直しや、費用削減など経営改善に向けた取り組みを行っていく。

④企業債残高対事業規模比率については、前年と比べ大きく減少したが、これは算定基準の変更によるものである。

⑥汚水処理原価については、昨年度に比べ上昇した。この要因としては、人口減少による年間有収水量の減少及び施設の老朽化による維持管理費の上昇が要因と考えられる。そのため、必要に応じ施設の更新を行うなどし、維持管理費の削減に努める。

⑦施設利用率は類似団体平均値より高くなっているが、人口減少の影響により、将来的には減少していくことが想定される。また各処理施設単位で見ると施設利用率にばらつきがあるので、適宜将来を見据え、各施設に合わせた計画を策定していく。

⑧水洗化率については、前年比横ばいとなっているが、類似団体平均値を大きく上回っている。これは処理施設の建設当時から地元が中心となって事業を進めており、未接続者への加入促進をしていることが影響していると考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

農業集落排水は、昭和63年に事業を着手し、平成3年から順次、供用開始しているため、耐用年数に問題はない。しかし、今後、施設が更に老朽化し、修繕費等の維持管理費の増加が予想される。

そのため、平成28年度から平成30年度にかけ全処理区で機能診断を行い、施設の状況の調査を行った。今後はこの機能診断の結果を基に、将来の維持管理や更新計画を盛り込んだ最適整備構想を策定し、適切な維持管理に努めていく。

### 全体総括

施設の老朽化に伴う修繕費の増加や、人口減少による使用料金収入の減少を考えると、今後はより厳しい経営状況になることが想定される。

そのような状況のなかで、将来の維持管理や更新計画を盛り込んだ最適整備構想を策定し、長期的かつ広い視野を持ち、経営に努めていく必要がある。

また、近年、使用料金改定を行っているが、定期的に使用料金の見直しを行い、健全な運営を行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。